中国特許の真実：国際展開の現在地と質的脅威

AI・電池・通信・半導体における権利化の最前線と日本企業への示唆

グローバル知財戦略研究所
2026年度 特別調査レポート

Gemini Notebook

エグゼクティブ・サマリー：パラダイムの転換

スケールと国際化

~~圧倒的な量は国内向けのみである~~

PCT出願数 世界第1位

2025年: 73,718件
(世界シェア26.7%)。国内中心と
国際競争力は完全に両立している。

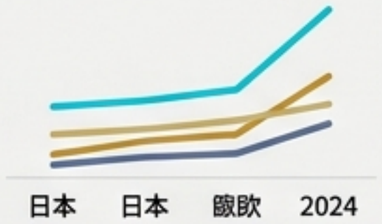


権利化の実績

~~海外での権利化能力は低い~~

年間4.7万件超が日米欧で登録

厳しい海外審査を通過し、
権利化される特許が
2024年に急増。



質の凌駕

~~量だけで「質」は伴っていない~~

高被引用指標 (HCP) で世界水準超え

AI、半導体など特定分野では、
日欧を凌駕し米国に迫る影響力
を持つ。



戦略的脅威

~~「中国製」として一括りで評価できる~~

技術の「レイヤー」による強弱が鮮明

バッテリー材料や5G通信必須特
許など、自社の急所となる請求項
単位での監視が不可避。



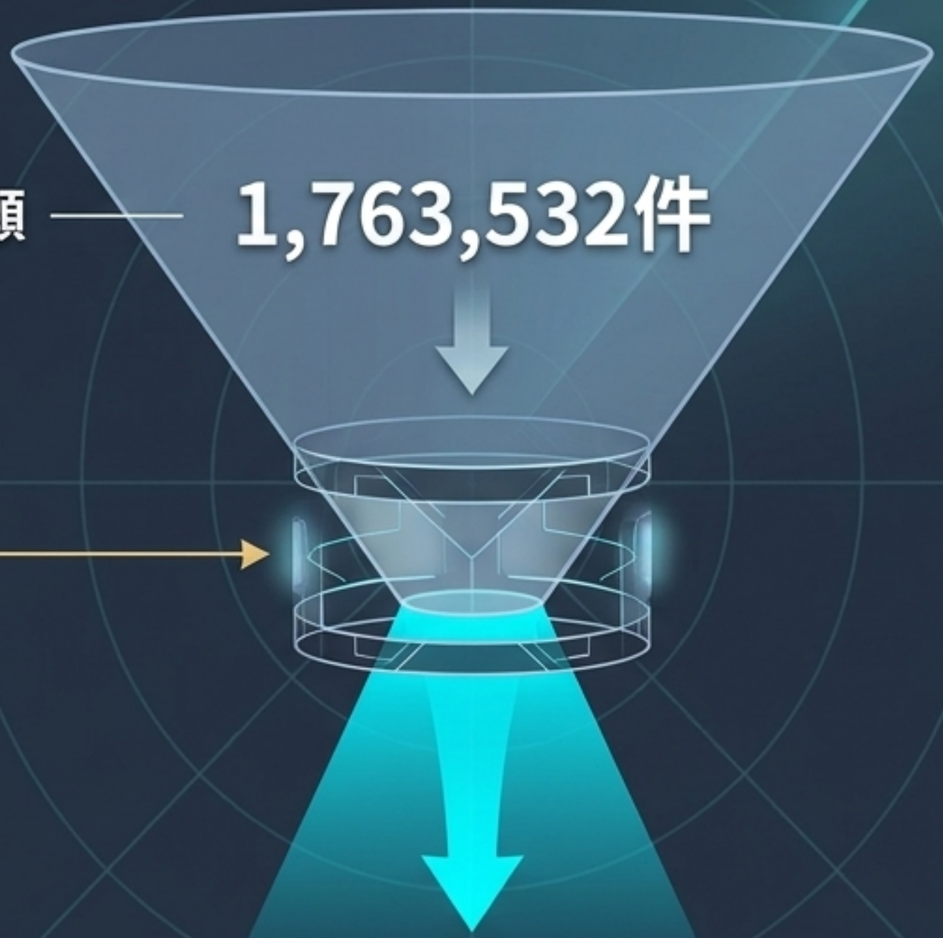
Gemini Notebook

規模と比率のパラドックス：「4%の錯覚」

2025年
中国本土の国内発明特許出願
(巨大な母集団)

1,763,532件

抽出率
約4.18% (PCT対国内比) /
6.99% (海外出願比率)



2025年
中国由来PCT出願

73,718件

絶対数は世界最多（シェア26.7%）

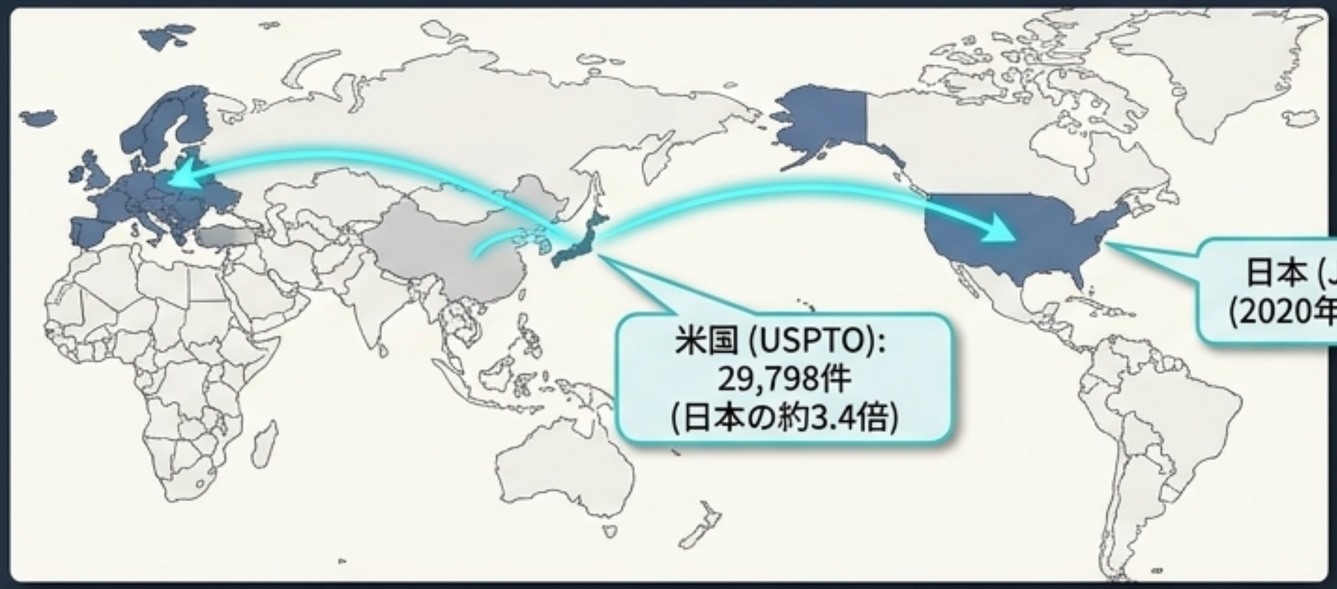
Key Takeaway

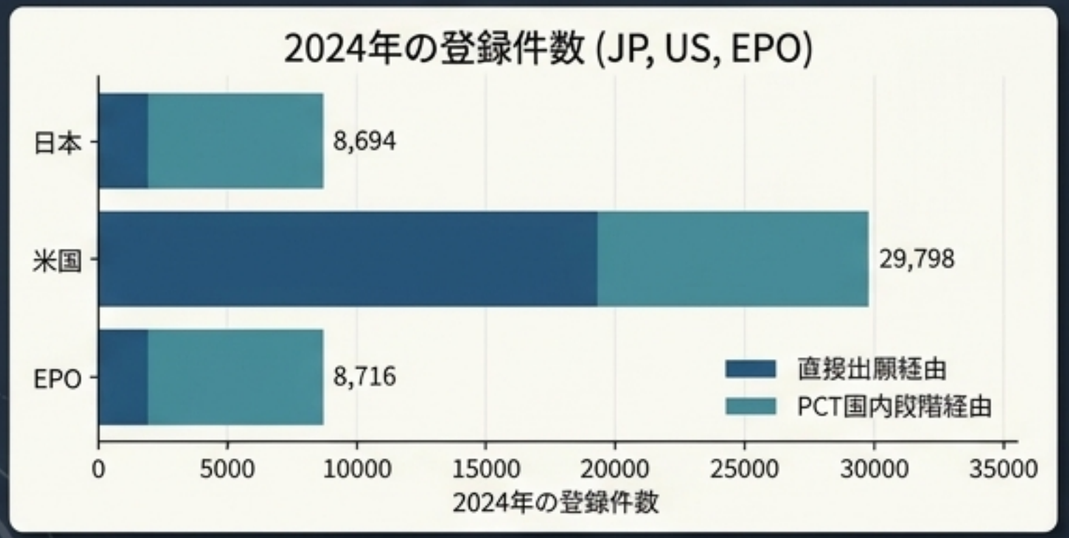
「中国特許の95%以上は国内専用である」という事実は、脅威を割り引く理由にはならない。

巨大な国内競争から選別された「精鋭の絶対数」が世界最大であることを意味する。

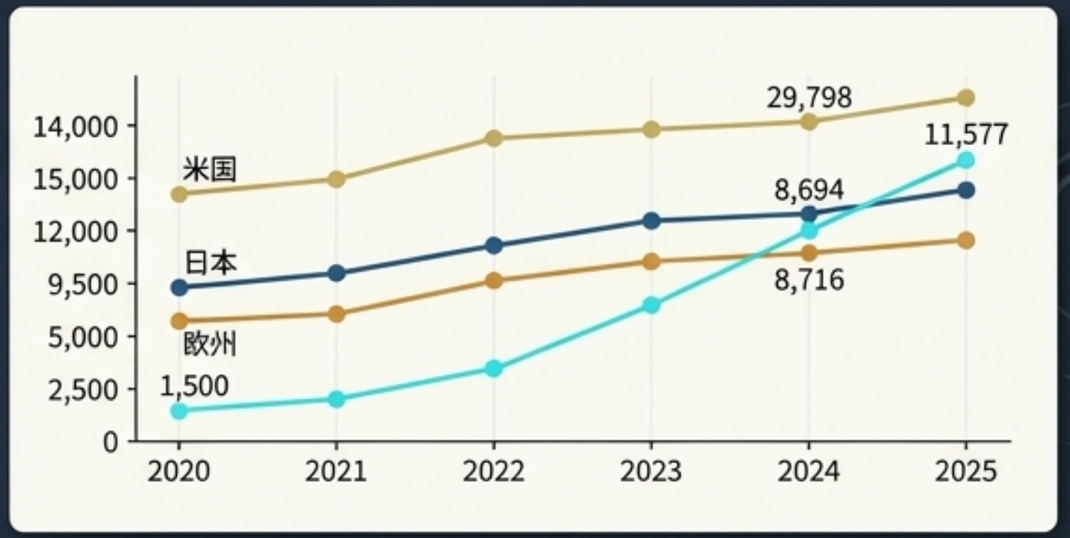
Gemini Notebook

日米欧における権利化の最前線（2024-2025）





米国は直接出願経路が多い一方、日本・EPOはPCT経由が多数。



EPOでは2025年に登録数が急増し、日本に肉薄。

Gemini Notebook

「特許の質」を正しく解剖する3つのレンズ

特許の質を「1件あたりの平均スコア」で語ることは無意味である。目的に応じて指標を使い分ける必要がある。



Lens 1: 技術的影響力 (Technical Impact)

- 指標：被引用数、高被引用特許（HCP）割合
- 意味：後続技術への影響。中国の「量だけで引用されない」という神話を検証する。

Lens 2: 権利化能力 (Patentability)

- 指標：日米欧での登録到達率・フロー件数
- 意味：各国の厳しい審査を通過し、独占排他権を獲得する実務能力。

Lens 3: 法的・戦略的脅威 (Strategic Threat & FTO)

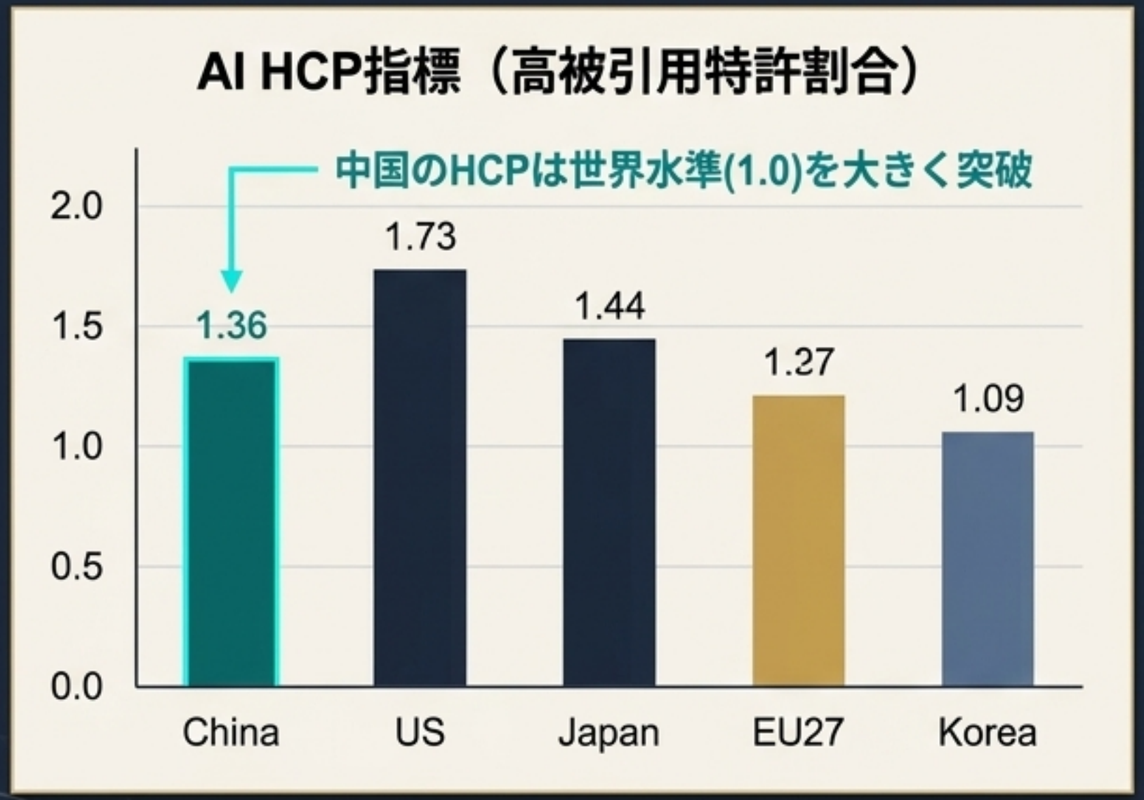
- 指標：有効登録率（存続特許）、標準必須性、自社工程との請求項の一致
- 意味：訴訟やライセンス交渉における真の事業リスク。件数集計だけでは決まらない。

Gemini Notebook

【分野別評価：AI】量の暴力から「質的影響力」への転換

× 誤解：AI特許は多いが、大半は価値のない出願である

○ 現実：高影響力（HCP）特許群はすでに世界水準を超え、日本を猛追している



1 AI被引用シェア (2010-2024)

米国(51.91%)に次ぐ中国(29.81%)。日本は6.86%。

2 米国でのAI登録 (2024)

年間1,998件 (USPTO)。

3 生成AIの国際公開 (2024-2025)

中国起源は4.3万ファミリー超に急増。

戦略的示唆: 基盤モデルだけでなく、画像認識、端末統合などの「応用レイヤー」における請求項の権利化動向を注視せよ。

Gemini Notebook

【分野別評価：バッテリー】ケミストリーと工程で異なる勝敗

電池全体を「一括り」で評価することは危険。材料・化学系ごとに質と規模の優劣が完全に分かれている。

ナトリウムイオン電池

【中国優位】

圧倒的な量に加え、特許品質（影響力）でも平均を上回る。

LFP等の低コスト系

【中国優位】

市場規模と量産工程の特許蓄積で圧倒。

リチウム全固体電池

【日本優位】

出願量は中国が多いが、品質面（HCP等）では相対的に日本に確固たる強みが残る。

電池リサイクル

【新興脅威】

国際ファミリーに占める中国比率が5%（2013）から29%（2023）へ急増。CATL/Brunpなどが牽引。

戦略的示唆: 完成品特許だけでなく、活物質組成、界面制御、電極製造プロセス（積層・巻回）の工程特許を分けて監視する必要がある。

Gemini Notebook

【分野別評価：通信】5Gにおけるグローバル・ポートフォリオの厚み

単なる「標準必須宣言（SEP候補）」の数ではなく、実際に登録・存続し、かつ価値を持つファミリーを見極める。

2026年 5G特許レース分析：リーダーボード

	企業名	国籍	有効登録ファミリー数	資産指標	技術寄書
1位	**Huawei**	中国	1位	2位	1位
2位	Qualcomm	米国	2位	1位	4位
3位	LG Electronics	韓国	3位	4位	10位

欧州における権利化の厚み

2025年EPOデジタル通信分野における全登録（10,183件）のうち、**中国シェアは28.97%**（2,950件）と圧倒的。

戦略的示唆: 通信機能を持つ自動車やIoT機器メーカーは、「中国製」と一括りにせず、自社製品が採用する規格と必須機能（標準請求項との一致）を直接対比せよ。

Gemini Notebook

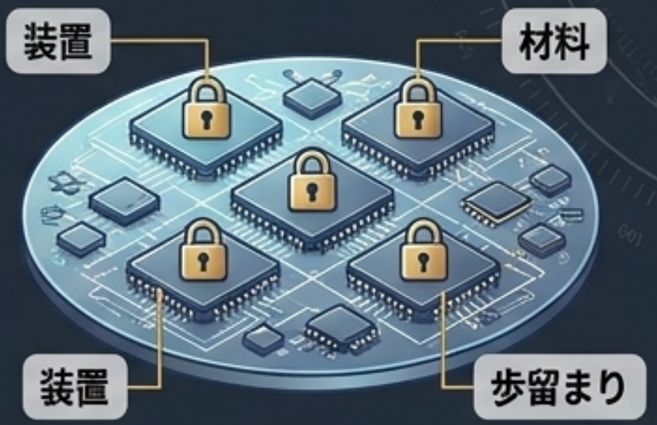
【分野別評価：半導体】蓄積される「質」とノウハウの境界

権利化と影響力（Patent Reality）



HCP指標の大幅上昇: 1.48を記録し、米国に肉薄。欧州での台頭: 2025年EPO半導体登録で416件を獲得（同分野全登録の18.4%）

実力との乖離（The Know-how Gap）



警告:「高被引用＝先端ロジックの量産能力」ではない。装置、材料、歩留まり等の最重要ノウハウは特許化されず秘匿される。

戦略的示唆: 先端ロジックの完成度だけで中国を軽視してはならない。
日本の強みである「成膜・洗浄」「CMP」「実装」「パワーデバイス」周辺の工程特許を狭く・深く監視すべきである。

Gemini Notebook

4大技術分野：統合診断マトリクス

	AI (人工知能)	Batteries (電池)	Telecom (通信)	Semiconductors (半導体)
強みの源泉	米国に次ぐ影響力(HCP1.36)、生成AIの猛追	Naイオン、LFP、リサイクルの圧倒的シェア	Huaweiを筆頭とする5G有効SEPの分厚い壁	影響力の底上げ(HCP1.48)、設計・パッケージング
注視レイヤー	画像認識、応用用途、データ処理	電極製造・積層等の量産工程、活物質	規格必須機能と自動車/IoTへの波及	半導体、成膜・洗浄等の部分工程、パワーデバイス
日米欧ステータス	広範な分野で権利化進行中	欧州での循環技術特許が急増	EPO通信分野の約30%を制圧	EPOでの登録フローが着実に拡大

Gemini Notebook

目的別：中国特許の評価フレームワーク (The Assessment Quadrant)

176万件のノイズに溺れないため、目的に応じて「見るべき母集団」を切り替える。

Left: China

Geographic Target

Right: Global

Assessment Purpose

Top: FTO/Risk

Bottom: Strategy/Trends

【Q1: FTO - 中国市場】中国内での製造・販売リスク

フィルター：国内専用特許を含む、中国での存続権利

注視対象 ： 登録請求項と自社の製造・販売工程の完全一致

【Q2: FTO - グローバル】日米欧での侵害リスク

フィルター：海外へ「選別・移行」された中国起源ファミリー

注視対象：対象国での有効登録ステータスとクレーム対応

【Q3: Tech Trends】技術動向と先行技術調査

フィルター：未登録・失効・外国未展開を含む全公開文献

注視対象：公開内容、引用関係、新規性阻却の材料として

【Q4: Licensing】提携とライセンス交渉

フィルター：保護市場、残存期間、必須性の高い特許群

注視対象 ： 大手だけでなく、研究機関や中堅からの技術移転

Left: China

Geographic Target

Right: Global

Gemini Notebook

日本企業への実践的アクション（The Playbook）

データからインテリジェンスへ：実務に落とし込む3ステッププロセス

1

Step 1: 全体母集団の抽出

「中国特許」という国籍で一括りにしない。自社の製品・材料・工程・販売地域を厳密に定義し、関連技術の全母集団を抽出する。

2

Step 2: レイヤー分けと法的状態の追跡

抽出した群を「海外登録済み」「係属中」「中国のみ」「失効」に分類。年1回のランキングではなく、主要競合の状態変化を動的に監視する。

3

Step 3: 請求項単位での自社事業対比

経営層への報告は「中国の何割が低品質か」ではない。「自社の急所に刺さる存続海外ファミリーの有無」と「代替設計・ライセンスの可否」に絞って報告する。

Gemini Notebook

調査設計の確度と次なる一歩（Professional Data Rigor）

確度の高いマクロ事実 (Confirmed Realities)

- PCT出願の絶対規模の巨大さと、日米欧における着実な登録実績。
- AI・半導体における高被引用特許の存在と質的脅威の顕在化。

独自調査が不可欠な領域 (Requires Custom Investigation)

- 国別有効率の算出: 存続情報が欠ける案件を精査し、真の「生存率」を比較。
- 名寄せとファミリー整理: 海外拠点や大学発スピンアウト等の複雑な権利移転スキームの紐解き。
- 実務的侵害リスク: 自社工程と個別の請求項（クレーム）を緻密に突き合わせる作業。

巨大なノイズの中から「真のシグナル」を見つけ出す。
それがグローバル競争を生き抜く唯一の知財戦略である。

Gemini Notebook